

巻 頭 言

牧草混植造林について

蔵 知 毅

岡山県の 37 年度林政課予算に、牧草混植造林事業費というのがある。御承知のように造林をする場合、種苗を定植してから 3～4 年は毎年下刈りをして、苗の保護をしなければならない。ところがこの下刈りの人夫賃が相当な経費になるのである。そこでこの経費を節約するためと、施肥による苗木の発育をねらって考えられたのが、この牧草混植造林計画である。山林を伐採した跡を一応火入れをして、その後肥料を撒布し、その後に牧草種子を播き、レーキで覆土して、しばらくして苗木を植えるのである。

このようにして牧草が繁茂して来れば、これを刈取って利用するわけであって、下刈り人夫賃を節約しようというのである。更に定植後 3～4 年

を経過した後は、この山林に家畜を放牧して、牧草を利用するのである。この場合は家畜の糞尿が肥料として利用され、又荳科牧草の根瘤菌が肥料になるのである。このように山林と畜産とを結びつけた新しい計画は、現地で非常な好評を得ているのであって、将来の牧野改良の一方式を示すものであると考えられる。

最近和牛生産地で牧野改良事業が、事業費の点で問題になっているようであるが、和牛の活動性や登はん能力を考えると、このような牧野改良方式を採り入れることによって、一応解決点が見出されるようである。

山林との結びつきを考えた、この様な方式についても御一考を煩わしいものである。